



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月12日 東

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所  
 コード番号 6460 URL <http://www.segasammy.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 里見 治  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 高橋 公一 (TEL) 03-6215-9955  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	267,512	△12.0	16,264	△65.1	16,221	△67.0	△24	—
26年3月期第3四半期	303,961	46.8	46,574	558.4	49,175	480.6	44,329	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 6,953百万円(△85.1%) 26年3月期第3四半期 46,562百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△0.10	—
26年3月期第3四半期	182.53	181.00

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	565,891	346,681	60.3
26年3月期	542,936	348,270	63.2

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 341,179百万円 26年3月期 343,300百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
27年3月期	—	20.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	352,500	△6.7	16,000	△58.5	15,000	△63.0	△13,000	—	△53.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	266,229,476株	26年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	21,915,584株	26年3月期	22,627,725株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	244,061,673株	26年3月期3Q	242,859,159株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成27年2月13日にアナリスト向けの電話会議を開催する予定です。その説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
売上高	207,004	303,961	267,512	△36,449	△12.0
営業利益	7,074	46,574	16,264	△30,310	△65.1
経常利益	8,469	49,175	16,221	△32,954	△67.0
四半期純利益	3,067	44,329	△24	△44,354	—
	円	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	12.54	182.53	△0.10	△182.63	—

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融・財政政策の効果を受け、企業業績の向上や雇用情勢に改善が見られる等、総じて景気は緩やかな回復傾向が続いているものの、消費税率引き上げ等の影響による消費意欲の低下が引き続き消費を下押しする懸念や、新興国を中心とした海外経済の下振れに対する不安感から、景気の本格回復にはまだ時間を要する状況で推移しております。

このような状況の中、遊技機業界におきましては、遊技機の型式試験を執り行う一般財団法人保安通信協会（略称：保通協）での、パチスロ遊技機の型式試験方法の運用が変更されたことに伴い、市場全体で新タイトルの販売数が減少したことから、パチスロ遊技機における新台入替は前年同期を下回って推移しております。一方、パチンコ遊技機の新台入替は主に主力製品を中心に若干の需要拡大が見られたことから、比較的堅調に推移しております。今後の市場活性化に向けては、エンドユーザーに支持される機械の開発、供給等が求められております。

アミューズメント業界におきましては、スマートフォンをはじめとした遊びの多様化並びに市場を牽引するタイトルの不在により、市場が低調に推移しております。今後の市場活性化に向けては、多様化する顧客ニーズに応じた斬新なゲーム機の開発、供給等が期待されています。

家庭用ゲーム業界におきましては、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)やスマートフォン向けなどのデジタルゲーム市場における需要が拡大する一方で、パッケージゲーム市場は低調に推移しております。

このような経営環境のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,675億12百万円（前年同期比12.0%減）、営業利益は162億64百万円（前年同期比65.1%減）、経常利益は162億21百万円（前年同期比67.0%減）となり、解体費用引当金繰入額や映画自主製作中止に伴う損失などの特別損失を56億12百万円計上したことに加えて、今後の業績見通しや課税所得の見積等を勘案し見積実効税率を見直した結果、法人税等が増加したため、四半期純損失は24百万円（前年同期は四半期純利益443億29百万円）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

《遊技機事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	74,053	160,224	115,346	—	—
セグメント間売上高	297	139	57	—	—
売上高合計	74,350	160,364	115,404	△44,959	△28.0
営業利益	7,797	50,045	20,699	△29,345	△58.6
	台	台	台	台	%
パチスロ販売台数	130,590	286,396	130,191	△156,205	△54.5
パチンコ販売台数	89,188	156,538	225,783	69,245	44.2

パチスロ遊技機におきましては、当第3四半期においてロデオブランド『サラリーマン金太郎 出世回胴編』を販売したものの、新タイトルの投入数が前年同期比で減少したことから、前年同期実績を下回る130千台の販売となりました。パチンコ遊技機におきましては、当第3四半期において、今期における主力タイトルであるサミーブランド『ぱちんこCR北斗の拳6』シリーズの販売が132千台を上回るなど、堅調に推移した結果、前年同期実績を上回る225千台の販売となりました。

以上の結果、売上高は1,154億4百万円（前年同期比28.0%減）、営業利益は206億99百万円（前年同期比58.6%減）となりました。

当第3四半期に販売を開始した遊技機の主要販売機種名及び販売台数

パチスロ遊技機

機種名	ブランド	販売台数
サラリーマン金太郎 出世回胴編	(ロデオ)	37千台

パチンコ遊技機

機種名	ブランド	販売台数
ぱちんこCR北斗の拳6シリーズ	(サミー)	132千台

## 《アミューズメント機器事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	30,634	28,007	28,901	—	—
セグメント間売上高	2,463	3,565	4,028	—	—
売上高合計	33,098	31,573	32,930	1,356	4.3
営業利益	2,615	△275	474	749	—

アミューズメント機器事業におきましては、『StarHorse3 Season III CHASE THE WIND』におけるCVTキット等の販売、『WORLD CLUB Champion Football』、『戦国大戦』におけるCVTキットやカード等の消耗品の販売、『ボーダーブレイク』シリーズ、『セガネットワーク対戦麻雀 MJ5 EVOLUTION』などのレベニューシェアタイトルによる配分収益が計上され、売上高は329億30百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益は4億74百万円（前年同期は営業損失2億75百万円）となりました。

## アミューズメント機器の主要販売タイトル名及び販売実績

タイトル名		販売実績
「WORLD CLUB Champion Football」シリーズ	トレーディング カードゲーム	23億円
「StarHorse3」シリーズ	メダルゲーム	13億円
戦国大戦	トレーディング カードゲーム	11億円

※販売実績は、カード等の消耗品販売やレベニューシェアタイトルによる配分収益等を含んでおります。

## 《アミューズメント施設事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	32,070	32,405	30,971	—	—
セグメント間売上高	11	9	9	—	—
売上高合計	32,081	32,415	30,980	△1,434	△4.4
営業利益	984	△55	△542	△487	—
	店舗	店舗	店舗	店舗	%
国内アミューズメント施設数	237	203	198	—	—
(参考)	%	%	%		
国内既存店舗売上高前年同期比	93.7	94.9	100.1	—	—

アミューズメント施設事業におきましては、前期に引き続き既存店舗の運営力強化を行い、国内既存店舗の売上高は、前年同期比100.1%でしたが、消費税率引き上げによる売上高減少の影響を受けました。

国内においては当第3四半期に1店舗の出店及び1店舗の閉店を行った結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は198店舗となりました。

以上の結果、売上高は309億80百万円（前年同期比4.4%減）、営業損失は5億42百万円（前年同期は営業損失55百万円）となりました。

## 《コンシューマ事業》

	前々年同期 連結累計期間	前年同期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年同期比	
				増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	60,385	72,394	82,195	—	—
セグメント間売上高	562	539	583	—	—
売上高合計	60,947	72,934	82,779	9,844	13.5
営業利益	518	2,781	2,299	△482	△17.3
	万本	万本	万本	万本	%
ゲームソフト販売本数	694	631	890	259	41.1

コンシューマ事業におきましては、パッケージゲーム分野において、『Alien: Isolation』、『Football Manager 2015』などの新作タイトルの販売を行なった結果、パッケージ販売本数は、米国354万本、欧州395万本、日本140万本、合計890万本となりました。

一方で、携帯電話・スマートフォン・PCダウンロード等のデジタルゲーム分野におきましては、オンラインRPG『ファンタシースターオンライン2』や、『ぶよぶよ!!クエスト』、『チェインクロニクル ～絆の新大陸～』等の主力タイトルの他、『アンジュ・ヴィエルジュ ～第2風紀委員 ガールズバトル～』、『サカつくシュート!』等の既存タイトルが好調に推移した結果、デジタルゲーム分野全体は堅調に推移いたしました。また、携帯電話・PC向けパチンコ・パチスロゲームサイトにおいては、スマートフォン対応版『777TOWN for Android』及び『777TOWN for iOS』並びにDeNA向け『モバ7』の取り組みを強化しております。

なお、デジタルゲーム分野における国内配信タイトル数は平成26年12月末時点で132本（うち、売切り型73本、無料プレイ型59本）となりました。

玩具販売事業におきましては、『アンパンマンシリーズ』及び『ジュエルパッド』などを中心に販売を実施いたしました。

アニメーション映像事業におきましては、TVシリーズ『弱虫ペダル』のライセンス収入、物販収入などが堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は827億79百万円（前年同期比13.5%増）となりましたが、利益面においては、デジタルゲーム分野は堅調に推移した一方で、パッケージゲーム分野、玩具販売事業が低調に推移したほか、広告宣伝費等が増加したことにより、営業利益は22億99百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

## 当第3四半期に販売を開始したゲームソフトの主要販売タイトル名及び販売本数

タイトル名	販売地域	プラットフォーム	販売本数
Alien: Isolation	欧・米	PS3、PS4、Xbox360 XboxOne、PC	176万本
Football Manager 2015	欧・米	PC	64万本
ソニックトゥーン 太古の秘宝	日・欧・米	WiiU	49万本
ソニックトゥーン アイランドアドベンチャー	日・欧・米	3DS	

## (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年10月31日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、平成27年2月12日公表の「グループ構造改革実施等に伴う通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成24年5月17日 企業会計基準第26号。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成24年5月17日 企業会計基準適用指針第25号。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が812百万円、繰延税金資産が101百万円減少し、利益剰余金が711百万円増加しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微です。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。



## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	101,220	104,620
受取手形及び売掛金	48,108	53,680
有価証券	107,713	110,215
商品及び製品	6,130	7,324
仕掛品	13,610	12,787
原材料及び貯蔵品	16,189	15,359
その他	25,824	28,109
貸倒引当金	△323	△475
流動資産合計	318,475	331,622
固定資産		
有形固定資産		
土地	39,029	40,013
その他(純額)	63,133	66,043
有形固定資産合計	102,162	106,056
無形固定資産		
のれん	18,915	15,837
その他	12,879	14,058
無形固定資産合計	31,795	29,895
投資その他の資産		
投資有価証券	60,825	66,077
その他	30,483	33,015
貸倒引当金	△805	△776
投資その他の資産合計	90,503	98,315
固定資産合計	224,461	234,268
資産合計	542,936	565,891

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,292	37,022
短期借入金	12,918	12,913
未払法人税等	6,288	6,304
引当金	4,782	3,607
資産除去債務	325	296
その他	29,461	33,797
流動負債合計	91,069	93,942
固定負債		
社債	37,800	57,000
長期借入金	35,198	37,854
退職給付に係る負債	6,053	4,460
役員退職慰労引当金	146	117
資産除去債務	2,165	2,209
解体費用引当金	—	3,395
その他	22,232	20,229
固定負債合計	103,596	125,266
負債合計	194,666	219,209
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	119,312	119,278
利益剰余金	219,684	210,158
自己株式	△37,971	△36,777
株主資本合計	330,977	322,612
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,804	16,823
繰延ヘッジ損益	0	5
土地再評価差額金	△4,705	△4,736
為替換算調整勘定	△2,281	3,781
退職給付に係る調整累計額	2,504	2,693
その他の包括利益累計額合計	12,322	18,567
新株予約権	1,078	926
少数株主持分	3,892	4,575
純資産合計	348,270	346,681
負債純資産合計	542,936	565,891

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	303,961	267,512
売上原価	175,683	164,096
売上総利益	128,278	103,416
販売費及び一般管理費	81,703	87,152
営業利益	46,574	16,264
営業外収益		
受取利息	246	207
受取配当金	914	981
持分法による投資利益	—	92
為替差益	1,254	—
投資事業組合運用益	932	278
その他	750	582
営業外収益合計	4,097	2,142
営業外費用		
支払利息	634	673
持分法による投資損失	94	—
社債発行費	64	155
為替差損	—	474
支払手数料	44	143
その他	656	738
営業外費用合計	1,495	2,185
経常利益	49,175	16,221
特別利益		
固定資産売却益	3,576	112
投資有価証券売却益	11,969	187
新株予約権戻入益	0	107
収用補償金	—	277
その他	17	215
特別利益合計	15,564	899
特別損失		
固定資産売却損	7	79
減損損失	268	294
投資有価証券評価損	41	99
関係会社株式売却損	—	255
関係会社清算損	396	—
不具合対応費用	347	—
解体費用引当金繰入額	—	2,778
映画自主製作中止に伴う損失	—	1,826
早期割増退職金	—	91
その他	37	187
特別損失合計	1,098	5,612
税金等調整前四半期純利益	63,641	11,508
法人税、住民税及び事業税	18,644	10,848
法人税等合計	18,644	10,848
少数株主損益調整前四半期純利益	44,996	660
少数株主利益	666	685
四半期純利益又は四半期純損失(△)	44,329	△24

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主利益	666	685
少数株主損益調整前四半期純利益	44,996	660
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,269	14
繰延ヘッジ損益	10	4
土地再評価差額金	—	△30
為替換算調整勘定	5,216	5,588
退職給付に係る調整額	—	188
持分法適用会社に対する持分相当額	607	527
その他の包括利益合計	1,566	6,292
四半期包括利益	46,562	6,953
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45,730	6,219
少数株主に係る四半期包括利益	831	733

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	遊技機事業	アミューズ メント 機器事業	アミューズ メント 施設事業	コンシューマ 事業	計	その他 (注)	合計
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	160,224	28,007	32,405	72,394	293,032	10,928	303,961
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	139	3,565	9	539	4,254	498	4,753
計	160,364	31,573	32,415	72,934	297,287	11,427	308,715
セグメント利益又は損失(△)	50,045	△275	△55	2,781	52,496	△790	51,705

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、複合型リゾート施設事業、情報提供サービス業などを含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	52,496
「その他」の区分の損失	△790
セグメント間取引消去	72
全社費用(注)	△5,203
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	46,574

(注) 全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	遊技機事業	アミューズ メント 機器事業	アミューズ メント 施設事業	コンシューマ 事業	計	その他 (注)	合計
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	115,346	28,901	30,971	82,195	257,415	10,096	267,512
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	57	4,028	9	583	4,679	549	5,229
計	115,404	32,930	30,980	82,779	262,094	10,646	272,741
セグメント利益又は損失(△)	20,699	474	△542	2,299	22,930	△1,489	21,441

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、複合型リゾート施設事業、情報提供サービス業などを含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益又は損失(△)	金額
報告セグメント計	22,930
「その他」の区分の損失	△1,489
セグメント間取引消去	38
全社費用(注)	△5,215
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	16,264

(注) 全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微です。